



もちの木とともに

内原小学校学校だより
第 7 号
令和元年 7 月 9 日発行

今年の梅雨は長くなっています。特に、雨の降る月曜の朝などは、重い荷物をもっての登校になるので「全員無事に学校に入ってくれるといいなあ」と願いながら、立哨に立っています。それでも子どもたちは、元気なあいさつをしながらかたわらを通り過ぎていきます。ご家庭での励ましの言葉が、子どもたちのたくましさを育てているのだと思います。ありがとうございます。



さて、あと 10 日あまりで夏休みになります。今回は、1 学期を振り返り、学校で見つけたちょっと嬉しいお話をお届けします。ご家庭でもぜひ、子どもとともに 1 学期を振り返ってみてください。成長への小さな種を見付け、褒めることを積み上げていくことで、大きな成長へと結び付けていくことができれば素晴らしいことだと思います。

まずは雨の日のお話。5 月 21 日（火）は、朝から大雨でした。風も強く、傘をさしていることが難しいくらいの天候でした。立哨からもどると、何人かの子どもたちがロータリーの脇を行ったり来たりしています。「何をしているの？」とたずねると、飼育委員会の子供たちがソックス（うさぎ）の世話をしているところでした。「雨の中大変だね」と声をかけると、「ごはん食べないと死んじゃいますから！」キラキラした瞳で自然に発せられた言葉に、ドキッとさせられた瞬間でした。生き物を飼うことは大変なことですが、子どもたちの内に大切なことを育ててくれているのかも知れません。「体験」や「体感」は、子どもたちにとって、かけがえのない「経験」になっていくのだと思います。



1 年生もがんばっています。6 月 18 日（火）に、清掃関係企業の出前授業「キレイのタネまき教室」が行われました。学級ごとに、掃除の大切さやほうき・ぞうきの正しい使い方を学習しました。その先生が帰りがけにおっしゃった言葉が、とても印象に残っています。「とてもよい気持ちにいただきました」多くの学校を回っているけれども、終わった後に気持ちが清々になるということはあまりないとのことでした。ものごとに素直に向き合い、一生懸命取り組む姿が、人の気持ちも豊かにさせるのだなあと思いました。

7 月 5 日（金）は、水戸市の「音楽のつどい」でした。本校からは金管バンド部 43 人が、学校の代表として参加しました。多少の緊張感も感じられましたが、音のまとまりがあり、とても気持ちの入った素晴らしい演奏でした。学校へ戻ると、一般の方からお電話がありました。「サウンドがそろっており、優しい音色でした」とのこと、さらに加えて「内原小の児童とすれ違ったとき、とても礼儀が正しかったんです。音楽だけでなく子どもたちも素晴らしいですね」と、お褒めの言葉をいただきました。3 人の顧問の先生方には、友達の出す音も含めた一つ一つの音を大切にしながら曲が奏でられるように、子どもたちに関わっていただいています。継続して丁寧に関わっていくことは本当に大変なことなのですが、それらが子どもたちやバンドの成長に結び付いているのだと思いました。小さなことを愚直に続けていくことが「力」を身に付ける近道なのかも知れません。